

# 観 察 記 録 ノ ー ト

## 両生類・爬虫類

### 飯田市美術博物館周辺に 生息する両生・爬虫類の記録

木下 進

飯田市美術博物館は、飯田市の丘の上市街地を形成する段丘面の東端にあり段丘崖と接して立地している。かつて、この段丘崖は、中央アルプスから林地が連続する緑の回廊となっていて、多様な動植物の移動経路となっていた。ところが、近年道路の開発や崖部の急傾斜地工事等のために、緑の回廊は、寸断されたり伐採されて、所々に、かつての形骸を残しているに過ぎない。

美術博物館の周辺には、マダケ、ニセアカシア林等を中心とした緑がわずかに残っている。こんな厳しい環境の所にも、未だに、両生・爬虫類が生き延びている。

ここに、最近美術博物館周辺で確認した両生類・爬虫類を記録しておく。

#### ①アオダイショウ *Elaphe climacophora*

2003年9月11日。本館と柳田館を繋ぐ橋の上で確認。

大型の個体で、体長約150cm以上あった。同年10月には、本館裏庭で同一個体と思われる個体を目撃している。

美術博物館周辺は、消費者センターや追手町小学校等の公共施設が多く、長姫神社などの社叢林もある。また、飯田城があった頃からの石垣が残っているなど、アオダイショウにも、主要な餌となるネズミ類などにも生息環境として比較的好ましい条件を備えていると考えられる。

#### ②ジムグリ *Elaphe conspicillata*

1995年5月27日 本館東側（体長約30cm程の幼蛇：図1）

2003年7月2日 追手町小学校と美博の中間の道路上（体長約40cm）

ジムグリは、本来夜行性でなかなか目に付きにくい

ヘビであるが、舗装道路などに出て迷ったものを見かけた。1個体は幼蛇であったことから、安定して生息を続けていることが推察される。

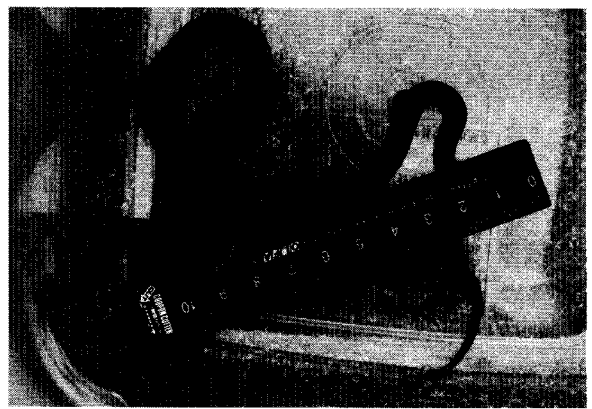


図1 ジムグリの幼蛇

#### ③アズマヒキガエル *Bufo japonicus formosus*

2003年11月5日 屋上階段

雨の夜、一段の高さが14cmある屋外の階段40段を登って、二階の出入り口まで来ていた1個体を確認。体長12cmの雌。燈火に飛来する昆虫類を食べに来たものと思われる。

近くに産卵する場所もなければ、卵塊を見かけたことがないことから、人為的に放されたものである可能性も考えられる。

美術博物館周辺は夕刻からは人通りが絶えること、ライトが点灯するために燈火に飛来した昆虫を捕食するには好都合であること、また段丘崖部のマダケ林にはミミズが生息するなど、個体が生きていくための諸条件は満たされている場所である。しかし、産卵場所となる湧水地がないことから繁殖は不可能だと考えられる。

#### ④ニホンアマガエル *Hyla japonica*

毎年3月末ごろから11月ごろまで鳴き声を確認している。（2003年は11月末になっても鳴いていた）。

美術博物館の西側に立地する追手町小学校の学習用の小さな水田では、産卵し繁殖しているのを10数年以前から毎年確認している。

（きのした しん／飯田市美術博物館）